

240時間実習を通じたソーシャルワークの学び

ソーシャルワーク実習を通して地域福祉を推進していくためには
地域支援を視野に入れたケース検討の実際

関西福祉大学

ソーシャルワーク実習報告会2023

5組 藤原クラス

芦田緒都葉（特別養護老人ホーム清住園／福崎町社会福祉協議会）

天野滉二郎（特別養護老人ホーム姫路・勝原ホーム／宍粟市社会福祉協議会）

井澤南菜花（特別養護老人ホーム星陽／高知市社会福祉協議会）

金谷菜ノ遥（軽費老人ホームケアハウスアゼリア／相生市社会福祉協議会）

北川雄一郎（障害者支援施設西はりまりハビリテーションセンター／相生市社会福祉協議会）

北添 壱夏（障害者就労継続支援事業所さくら園／高知市社会福祉協議会）

杉田 美優（特別養護老人ホームのじぎくの里／加古川市社会福祉協議会）

杉本 結唯（居宅介護支援事業所ケアプランみき／上郡町社会福祉協議会）

谷口 茉子（障害者支援施設赤穂精華園／相生市社会福祉協議会）

永井 颯（障害者支援施設愛生園／伊丹市社会福祉協議会）

別府美似夏（軽費老人ホームケアハウスアゼリア／たつの市社会福祉協議会）

松本千佳子（特別養護老人ホームサンライフ西庄／たつの市社会福祉協議会）

この資料は藤原クラスの2グループで使用するものになります。

2つのグループは以下の通りです。

- ①ソーシャルワーク実習を通して地域福祉を推進していくためには
- ②地域支援を視野に入れたケース検討の実際

できる限り、2つの動画を視聴していただくことを推奨します。

また、このレジュメは2つの報告を合わせた内容になっています。

私たちはココでソーシャルワーク実習をしました

60時間実習

特別養護老人ホーム

清住園（姫路市）
姫路・勝原ホーム（姫路市）
星陽（姫路市）
サンライフ西庄（姫路市）
のじぎくの里（高砂市）

軽費老人ホーム

ケアハウス アゼリア（たつの市）

居宅介護支援事業所

ケアプランみき（上郡町）

障害者支援施設

西はりまりハビリテーション
センター（たつの市）

赤穂精華園（赤穂市）

障害者就労支援施設

さくら園（赤穂市）

180時間実習

相生市社会福祉協議会

赤穂市社会福祉協議会

伊丹市社会福祉協議会

加古川市社会福祉協議会

上郡町社会福祉協議会

高知市社会福祉協議会

宍粟市社会福祉協議会

たつの市社会福祉協議会

福崎町社会福祉協議会

60時間実習の学び

コミュニケーション

アセスメントやインテーク面接を行う際には、夜間の行動や経済状況、社会的役割、家族との関係性、既往歴から考えられる注意事項など視野を広げて質問する必要があるということを学んだ。

利用者理解

アセスメント表に書かれている項目だけでは利用者のことをすべて知れたとは言えない。そのため、実際に利用者との交流などを通して関わりを持つことで見えてくる利用者の強みや特性などが理解できた。よって、実際に利用者との関係を持つことが重要であることを学んだ。

個人に合わせた支援

同じ障害や病気でも、利用者によって支援は多種多様であるため、その利用者に合わせて支援を行っているということも学んだ。看取り委員会に参加した時に、その人が最期に望むもの（家族との面会を増やすことや好きな音楽を流す）を可能な限り実現するなどといったその人に寄り添った支援を行っていた。

共同生活の中でのプライバシーへの配慮

利用者同士の関係性や一人で食事をした人などその人の望みを叶えられるような配慮を行っていた。従来型の施設であっても一人一人のスペースに仕切りを作りプライバシーを守っていた。

能力の向上

着替え・排泄のできる範囲や入浴時自分で洗える範囲は自分で洗えない部分を支援するなど、自分でできることは自分で行う。

生きがい

レクリエーション活動や利用者同士の交流などを通して自尊心や生きがいなどについて会話をし本人の生きる気力を失わないように働きかけていた。コミュニケーションを通して価値観や人生の誇りについて話してもらう（高齢者）。

生活の質(QOL)の向上

ユニット型(個室)で生活することでより安心感や実家に近い空間を作り落ち着く空間にするように意識されているように感じた。

多職種連携

看護師による健康チェック、管理栄養士による食事量の変化の管理、理学療法士によるリハビリテーションや医師による定期診察など施設内だけではなく、他機関の専門職と連携しながら支援を行っていることを学んだ。このことから施設内での連携だけではなく地域他機関との連携も重要であるということも学んだ。

支援の主役は 地域住民

地域福祉を推進していくのは社会福祉協議会が主体として行っていくのではなく、あくまで地域住民が主体であるということを学んだ。そして社会福祉協議会はその住民を支えるための助言や情報提供、場所の貸し出しなどの側面的な支援をおこなうのが役割であるということ学んだ。

→ボランティア活動を行うもの社協ではなく地域住民が主体的に行うものであり社協職員は補助や助言程度の立場でいることがコミュニティソーシャルワーカーの役割であるということ学んだ。

つながり 助け合い

インフォーマルな資源の活用の重要性や地域住民と顔なじみになることで支援につながるということ学んだ。また、地域住民同士のつながりだけではなく地域住民と社会福祉協議会とがつながりを持っておくことでそこから迅速に支援につなげるという役割を社会福祉協議会は持っているということ学んだ。さらに、社会福祉協議会はつながりを持つだけではなくニーズと社会資源をつなげる役割も併せ持っているということ学んだ。

日常生活自立支援 事業

認知症や知的障害・精神障害などで適切な判断が十分にできない方に、福祉サービスの利用手続きや金銭管理のお手伝いをして、日常生活を送れるようにサポートするものであるということ学び、権利擁護についての福祉ができることについて実践を通して学ぶことができた。

コミュニケーション 能力の重要性

地域では初対面の方と関わる機会が多く緊張や相手を探るような態度が出やすく自然なコミュニケーションを図ることの難しさを実感した。また、アセスメントを行うときには相手のペースに流されすぎて限られた時間と質問の中で聞きたいことを聞ききれずに終わってしまい、質問の仕方、話し方などまで意識してアセスメントを行うことが重要であると学んだ。

情報発信 広報活動

社協が行う啓発活動にはたくさんの意味が込められているということ学んだ。まずは、地域でどのような活動が行われているかを知る機会になる。そして、社協が行っている事業や社協の取り組みなどについて知ることができそれが支援につながるということ。紙媒体が中心の広報活動の中で動画配信サービスや音声配信（ろう者など）などの啓発の仕方に工夫を持たし、あらゆる角度からの情報を得ることができ福祉サービスをより身近なものにしていることを学んだ。

民生委員の 地域での役割

独居老人の方への介入や見守り活動や孤立している高齢者と地域をつなげる役割など多様な役割を担っているだけではなく、民生委員自身も研修会や定例会などを通して情報共有や動画視聴などを行い民生委員自身の啓発活動なども行っていた。このことから民生委員は福祉の最前線で活躍する存在であるということ学んだ。

社会福祉協議会での学び

240 時間の実習を通しての気づき

多職種連携・情報共有

施設実習では看護師や医師などの他職種との連携や情報共有などが密に行われていた。地域住民は、一人に一つの課題があるわけではなく、複数の課題を抱えている。そのため、あらゆる専門職からの支援が求められる。そこに他職種での連携や情報共有が必要であり、施設も社協も両方とも他職種他機関の連携というものが重要であることを感じた。

豊富な知識

施設実習では制度や法律、医学知識などの豊富な知識が必要であると感じた。また、社協実習では、このほかにもその地域についての知識や各年代に合わせた話のネタなどの知識が必要であること。

コミュニケーション能力の重要性

施設実習では利用者とのコミュニケーションを通して利用者理解や利用者の生活歴、を知ることができ支援につなげることができることを学んだ。そして、社協実習では、アセスメントを行い限られた時間の中で必要な情報を得るためには質問の聞き方や言い換えなどのスキルが必要であると感じた。

地域住民同士のつながり合いの大切さ

実習を通していくなかで地域住民同士のつながり合いに希薄さについて実感した。ヤングケアラーや独居老人の社会的孤立、ひきこもりなど地域住民同士のつながりの希薄さが一つの原因とされる社会問題がまだまだ地域に課題として残っていると感じた。また、地域住民同士や社会資源とのつながりが希薄なため助けの声を求める相手がない環境に陥っているため救いの手段が分からず社会的孤立が起きていることも感じた。

他世代交流の重要性

コロナ渦になり人との関わりがこれまでより希薄になってしまった。それでも、コロナ渦が緩和されだし、人とのつながりが少しずつ修復されて来てはいるが施設実習や社協実習を通して子どもと高齢者や大人と子ども、子どもと障害者・児などの縦や横とのつながりはまだまだ希薄になっていると感じた。同世代だけのつながりでは課題はさらに複雑化していく。そのため同世代のつながりだけではなく他世代とのつながりが重要であると感じた。

施設も地域の中の社会資源

実習を行う前では、地域福祉（社協）と施設は支援内容や考え方が違うと思っていた。しかしながら、240 時間の実習を通して施設も地域の一員であり社協や施設、地域住民、病院などすべての地域にある社会資源がつながり合っていること、連携し合っていることを240 時間の実習を通して学んだ。

情報発信

社協ではこれまで行っていた広報活動に SNS を取り入れた啓発活動や地域に住むすべての人に伝わるような方法を用いて広報活動を行っていく。

つながりの重要性を知ってもらう

広報活動を通して、地域住民には日頃からつながりを持っておくことが大切であるということ知ってもらいたい。そしてそのつながりの重要性を地域住民全体で共有を子なってもらいたい。大事だなと思うだけではなく、実際につながりを持つとはど

ういったことなのかを社協も介入しながら理解を深めていきたい。



メールや電話などではなく顔が見える関係が求められる。そして、このつながり・関わり合い

地域住民同士が世代関係なく、顔見知りの関係になりいつでもつながり助け合え、地域住民が住み続けられる地域づくり行っていく必要がある。

つながり・かかわりの場づくり

の場は地域住民自らが作っていくことが必要不可欠である。行政や社協は側面的な支援を行い、助言や情報提供、場所の貸出などの役割を担う。そして、その際同世代同士の関わりだけではなく他世代でつながれる場所づくりを行っていくべきであると考え。

**住民同士が助け合い、
他世代でつながり続けていく** v



ヘルパーやデイサービスといった介護保険サービスは使わないで、自分の力で生活したい

Aさん（77歳）

生年月日：昭和21年10月16日

職業：無職（元銀行員）

家族構成：4年前に妻が他界

息子は海外赴任中で音信不通

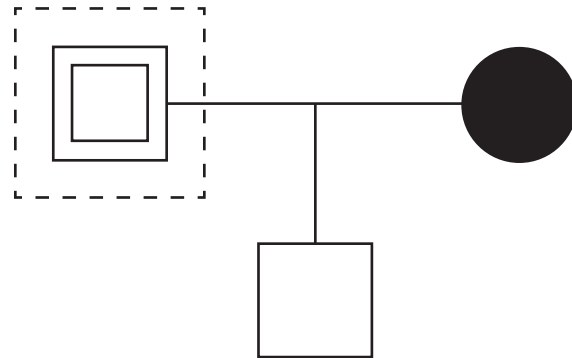
趣味：妻との旅行

年金：あり

介護保険：利用なし

A D L：自立

住居等：一戸建て／平屋／庭あり



ゴミ屋敷

近所のBさんからゴミの匂いが気になると社協に電話が入る。社協職員が民生委員と一緒にAさん宅を訪問した。

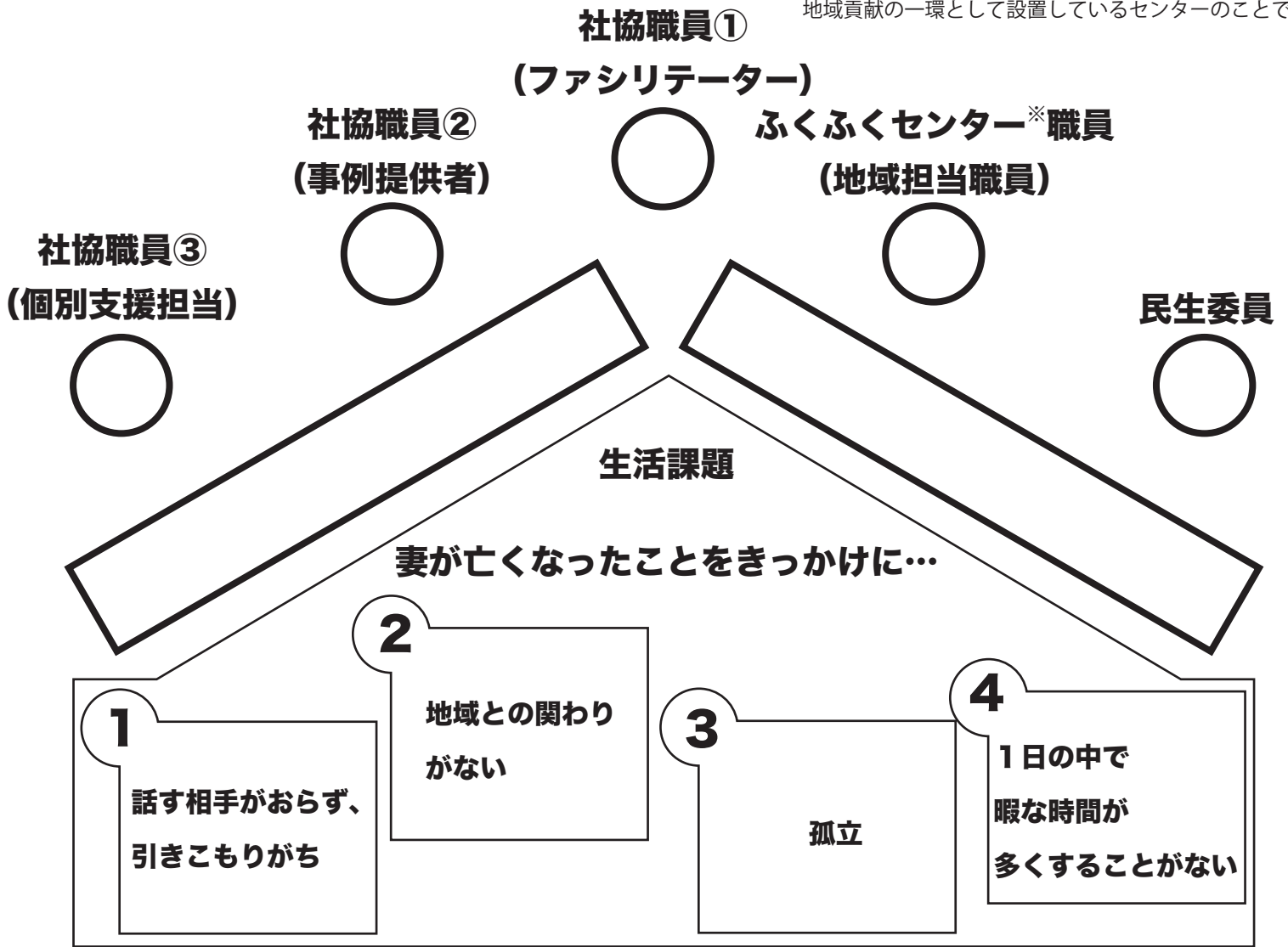
この訪問したことをきっかけに4年前からゴミ屋敷になっていることが発覚する。

その後、社協職員のサポートによりゴミ屋敷問題は解決した。

孤立・孤独

ゴミ問題は介入したことで終了かと思われた。しかし、Aさんから「妻がいなくなってから寂しいので話せる人が欲しい」と相談があった。話を聞く中で、ひきこもりがちであることが分かり、再び支援介入の運びとなった。

※ふくふくセンターとは地域にある特別養護老人ホームが地域貢献の一環として設置しているセンターのことです。

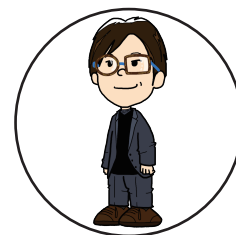


一度、みなさんも次の目標を改善・解決する方法を考えてみよう！
※動画の中で改善・解決する方法の一つの例をお話しします。

支援計画	目標	方法
短期	外に出て地域住民とコミュニケーションがとれる	
中期	地域活動に自主的に参加できる	
長期	地域の中で気軽に話せる友達ができる	

ソーシャルワーク実習【藤原クラス】

kusw_sw_fujiwara_class



ソーシャルワーク実習を終えたからこそその「問い」

240時間のソーシャルワーク実習を通して

自分ができるソーシャルワークの第一歩は？

フォロー中

サブスクリプション登録

スレッド

返信

再投稿



芦田緒都葉

@ashida_otoha

私にできるソーシャルワークの一步は今存在している社会資源の他、開発できる社会資源はなにか考えることだと思う。1人1人必要としている社会資源は異なる。だからこそ1人1人にあった資源を充足すること、人の面だけでなく周囲の環境面に目を向け、またその社会資源を周知していくためにはどうすれば良いかを考える。



天野滉二郎

@amano_kojiro

社会福祉士の役割は個別支援や地域支援だけではなく社会改革や社会資源の開発という役割もある。その社会改革や社会資源の開発を促進していくためには今の社会の現状や社会全体が福祉についてどれくらい関心を持っているのか、そしてその関心に対する偏りなどを理解しておく必要があると考える。そのため、これからは、ネットニュースなどではなくテレビのニュースや新聞記事や厚労省の調査結果などにも目を向けて行きたいと考えています。



井澤南菜花

@izawa_nanaha

実習を経て考えるソーシャルワークの第1歩は、自分が社会資源となり得るということに自信を持つことです。実習を行う中で「自分は社会資源を活用する側になる」という意識が変化し、多くの知識を得て深めていくことで自分自身も誰かにとっての社会資源になれるのだという考えが生まれました。



金谷菜ノ遥

@kanatani_nanoha

240時間の実習を終えて、私にできるソーシャルワークの第一歩は、クライアントの話を傾聴し、想いを引き出すことです。専門的な知識や経験が必要な場面もありますが、まずはクライアントに、話を聞いてくれていると思ってもらい、信頼を得ること、支援の基盤をつくるのが大切であると考えます。



北川雄一郎

@kitagawa_yuichiro

私にもできるソーシャルワークの第1歩として地域での直接的なコミュニケーションだと思う。様々なコミュニケーションの取り方があるが電話やメール等での会話は直接相手の顔が見えず良い支援ができない。だから私は車椅子であってもできるだけ外に出て良い支援方法を考えていきたい。



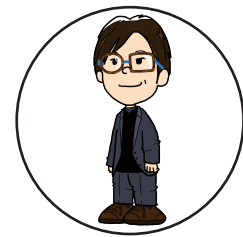
北添杏夏

@kitazoe_ichika

ソーシャルワーク実習を通して私ができるソーシャルワークの第一歩は、地域の社会資源について知ることだと思います。実際に住んでいても知らなかった取り組みや施設がありました。知ることによって考えが深まり、広がっていくと思うので、知識を持つことが第一歩になると考えます。

ソーシャルワーク実習【藤原クラス】

kusw_sw_fujiwara_class



ソーシャルワーク実習を終えたからこそ「問い」

240時間のソーシャルワーク実習を通して

自分ができるソーシャルワークの第一歩は？

フォロー中

サブスクリプション登録

スレッド

返信

再投稿



杉田美優

@miyu_sugita

対人援助技術を日常の中からも学んでいくために、家族や友達等の身近な人にも相手の強みを見つけて伝える関わり方を心がけていくこと。実習を通して対人援助の難しさを学んだので、まずは身近な人との関わりから学びを得ようと思った。お互いに寄り添いあえる、良好な関係性を築けるように普段から相手の良い所に注目することを意識したい。



杉本結唯

@sugimoto_yui

私にできるソーシャルワークの第一歩は、近所付き合いをすることだと考える。240時間の実習を通して、地域住民同士が繋がる大切さを学んだ。近所付き合いには、既に存在している課題を解決したり、新たな課題を見つける力がある。また、年々近所付き合いが希薄になっているからこそ積極的にしていくべきだと思う。



谷口茉子

@taniguchi_mako

私にできるソーシャルワークの第一歩は、広い視野を持つこと、周りのことに興味を持つことです。広い視野を持って、普段は気にも留めなかった周りのことに興味を持つことで、沢山の知識や情報を得ることができると考えます。それらは、信頼関係を築くためのコミュニケーションを図るのに役立つと考えるからです。



永井颯

@nagai_hayate

ソーシャルワークの第一歩として私ができることは、自分の友達や親戚に地域活動やボランティアへの参加を促すことであると考えます。自分の身の回りの人から福祉に関係する活動に参加してもらうことで、少しずつ福祉への理解も進めていくこともできるのではないかと実習を通して感じた。



別府美以夏

@beppu_miika

いろんな知識や経験を得るということ。社協に実習に行き職員が地域住民と関わっている様子を沢山見て、私は時事情報や一般常識の言葉を知らなさすぎるな、と自分の課題のひとつだと感じていた。世間話を話すことで生まれる信頼関係も多い。大学生の今だからしかできない経験を沢山積んで将来に活かせるようになりたい。



松本千佳子

@matsumoto_chikako

実習を通して、人と人との結びつきや日頃の関わり大切さを学びました。多くの人が課題の解決に向けて熱心に取り組む姿を見て、まずは地域にどんな取り組みが行われているのか「知る」ことが大切だと思います。日頃から地域の方と関わりをもち、課題を知り、意欲的にボランティア活動に参加していきたいです。